

●外来受付時間 (外来患者様駐車場無料)

内 科	月 ~ 金	8:30~11:00	12:30~15:00	17:30~20:00
精 神 科	月 水 金	8:30~11:00	12:30~15:00	
(小児心療科)	火 木	8:30~11:00		
※精神科(小児心療科)は電話で予約(082-232-6195)のうえご来院ください。再診の方の診療時間は17:00までとなっています。				
小 児 科	月 ~ 金	8:30~11:00	12:30~15:00	17:30~翌朝8:30(救急)
土 日 祝 24時間(救急)				
※小児科は上記受付時間以外でも救急診療は受け付けています。				
外 科	月 ~ 金	8:30~11:00		
小 児 外 科	月 ~ 金	8:30~11:00		
皮 膚 科	水		12:30~16:00	
耳 鼻 咽 喉 科	土(盆は休診)			19:00~22:30(救急)
麻 酔 科	月 水 金	8:30~11:00		
(ペインクリニック)				

入院食 栄養士からひとこと

栄養部門を担当している畠中です。入院食は治療の一環という面も兼ねていますが、食事は入院生活中の大きな楽しみです。制限のある中でも、栄養のバランスを考えながら、できるだけおいしく食べていただけるよう、メニューや調理方法に工夫を凝らしています。

乳幼児食は①6~8ヶ月用、②9~12ヶ月用、③1~2歳用、④3~5歳用の4種類に分けていますが、一人ひとりいろいろなケースがあるため、ご相談ください。また、アレルギーの患者様には、禁止食品を確認し、代替食をお出ししています。



▲夕食の例
(普通食)
五目寿司
紅生姜
南瓜旨煮
白桃
チエリー
清汁



畠中栄養士

舟入病院フラダンス部

8月7日、舟入公園で舟入幸町西町内会が盆踊り大会を開催。広島原爆養護ホーム舟入むつみ園からも、大勢の方々が参加し賑わいました。



舟入病院からはフラダンス部の12名が踊りを披露。「町内の皆様が楽しいと感じて頂けたら私達は幸せです」とリーダーの下前看護師。毎年、ハワイの伝統舞踊で猛暑を和らげています。

ふれあい看護体験

看護の心をみんなの心に

7月28日、ふれあい看護体験に中学生や高校生、社会人など8名の方が参加されました。

初めて着る白衣に最初は緊張気味でしたが、入院患者さんの洗髪や配膳、外来部門の見学、AEDの体験などを通して、看護の大切さを実感できたようです。

「看護師になりたくて30歳を過ぎてから学校に通い始めました。短い時間でしたが、看護の現場を体験して、看護師を志望する気持ちがますます強まりました」と広島県立西高等学校の石川智代さん。

看護師はやりがいのある仕事です。元気になった患者さんが「ありがとう」と声をかけてくれることが励みになります。



● 広島駅より **広島電鉄** 江波ゆき 舟入本町電停下車
バス 八丁堀経由 観音マリーナホップゆき
または広島西飛行場ゆき 新観音橋東バス停下車

● 横川駅より **広島電鉄** 江波ゆき 舟入本町電停下車

● 西広島駅より **広島電鉄** 土橋電停で江波ゆきに乗り換え 舟入本町電停下車

広島市立舟入病院広報紙

舟入病院 だより

平成21年 9月

第 3 号

編集・発行
広島市立舟入病院
〒730-0844 広島市中区舟入幸町14-11
TEL 082-232-6195
FAX 082-232-6156
HP http://funairi-hospital.jp/

小児科外来



ごあいさつ

■地域で支える小児救急

舟入病院は小児救急医療拠点病院に指定されており、小児科医が24時間体制で小児救急患者を受け入れていることで広く世間に知られています。

この24時間体制を維持するため、舟入病院の医師だけではなく、広島市・安佐・安芸地区の各医師会や広島大学病院、公的病院の大勢の医師の方々が交替で舟入病院に勤務されています。公的病院としては、県立広島病院、広島赤十字・原爆病院、済生会広島病院、広島鉄道病院、広島記念病院、広島逓信病院、広島市民病院などがあります。しかし、夜間救急診療というハードな勤務状況や臨床研修制度の変更などにより、小児救急に携わる医師の不足は深刻を極め、舟入病院でも医師の確保が年々困難になってきています。

このような中、24時間体制の小児救急を支えてくださっている医師の方々に、心からお礼を申し上げます。

■第二種感染症指定医療機関

このように小児救急のイメージが強い舟入病院ですが、二類感染症または新型インフルエンザ等感染症に罹患した方の入院・治療を担当する第二種感染症指定医療機関にも指定され、感染の拡大防止に貢献しています。

感染症は危険性が高い順に一類から五類まで分類されており、二類感染症としては、急性灰白髄炎(ポリオ)や重症急性呼吸器症候群(SARS)、鳥インフルエンザ(H5N1)などがあります。ペストやエボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱などの一類感染症は、第一種感染症指定医療機関が担当します。

新型インフルエンザについては、現在、世界的に流行しており、皆さんもよくご存じのことと思います。今年の

4月28日、世界保健機構(WHO)が人々から人への感染は確認されるもの感染集団は小さく限られていることを意味するフェーズ4を宣言した後、短期間で世界的な大流行(パンデミック)を引き起こし、6月12日にはフェーズ6に指定されました。

強毒性で到死率の高い鳥インフルエンザ(H5N1)とは異なり弱毒性だと言われていますが、感染力は非常に強く、日本でも今後、大流行が予想されます。また、ウイルスは変異していくため、決して油断はできません。

■舟入病院の診療科

舟入病院の歴史は古く、1895年(明治28年)に開設された広島市西伝染病院が起源です。第一次世界大戦中の1918年(大正7年)から翌年にかけてパンデ

ミックとなり、日本の死者が48万人と推計されているスペインかぜの流行期にも、大きな役割を果たしています。

現在の舟入病院は、いざという時には感染症の病院として大きな力を発揮することは言うまでもありませんが、内科、小児科、外科、小児外科、精神科(小児心療科)、麻酔科(ペインクリニック)、皮膚科、耳鼻咽喉科、被爆者医療など多岐にわたる診療科において、心のこもった最善の医療サービスを提供しています。

これからも職員一同丸となって、地域の人々に信頼される病院づくりを目指します。



山木戸副院長